

第73回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成30年10月30日（火） 14：00－15：00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、遠藤委員、折木委員、中須賀委員

(2) 政府側

和泉内閣総理大臣補佐官

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、須藤参事官、高倉参事官、森参事官、山口参事官

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構国際宇宙探査センター長 佐々木 宏

4. 議事要旨

(1) 準天頂衛星システムについて、宇宙開発戦略推進事務局及び関係府省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

(以下、○委員からの意見、質問、●事務局及び関係府省からの回答)

○ 準天頂衛星システムは、今後、機能強化を図っていくとのことだが、他国の測位衛星の性能を超えるのか。どのような目標を立てているのか。

● 準天頂衛星システムが、将来にわたって、しっかり使われるシステムにするためには、準天頂衛星の5、6、7号機で機能性能を図り、GPS など他国の測位衛星に劣後しないシステムにすることが重要である。

○ 準天頂衛星システムも機能性能の向上は重要。JAXA や大学の協力も得ながらしっかり進めていくことが重要。他方、各国では、物凄い人数・体制で研究開発が進められている。日本もオールジャパンで取り組んでいくことが必要になってくる。

(2) 国際宇宙探査について、JAXA より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。(以下、○委員からの意見)

○ 予算配分について、国際宇宙探査が優先され、科学探査が削られることのないようにしていただきたい。国際宇宙探査と科学探査が切り離されて議論されている感じがあるが、両者は連携して全体として考えることが必要。

○ Gateway をどこの軌道に配置するのかで、その後の、各国の宇宙利用に大きな影響が出て来る。Gateway の軌道決定については、日本にとってメリットのあるように主張していくことが大事ではないか。

- (3) 宇宙基本計画工程表改訂に向けた各部会の論点について、宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。
- (4) 宇宙活動法施行に向けた新たな小委員会の設置（改組）について、宇宙開発戦略推進事務局より説明を行い、11月15日からの宇宙活動法が完全施行することに伴い、「宇宙活動法技術基準小委員会」を「宇宙活動法基準・安全小委員会」に改組することについて、宇宙政策委員会として了承した。

以上